



くすりと健康

● 神戸市薬剤師会 ●

目薬の保存

まだまだ暑さの厳しい日が続いており、夏バテを気にしつつも、つい、かき氷やアイスクリームに手が伸びてしまします。地球温暖化を嘆いて二酸化炭素削減の方法を考えてもすぐに涼しくなるわけでもなく、冷蔵庫の冷氣にほっとする今日このごろ。

さて、その冷蔵庫には、野菜、肉、魚、卵など、実にいろいろな食品が入っています。ところで、それらと一緒に薬を入れている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ 薬にも、いろいろなタイプがあり、その保存方法も多種多様です。以前よりも、長く薬が処方されるようになったため、保存方法に苦慮されている方もいらっしゃると思います。そこで今月は、目薬の保存についてお話しします。

目薬には、白内障や緑内障の治療用、抗生物質、炎症止め、角膜保護

疲れ眼対策のものなど、いろいろなものがあり、それぞれの薬の性質によつて、保存方法は異なります。

ある冷蔵保存の目薬は、冷蔵しなければ、だんだん有効成分が壊れていき、効果が薄くなります。場合によつては、効果がなくなるだけでなく、変質することもあります。また、1週間ぐらいなら室温でも大丈夫なものや、冷蔵していれば液体だけけれど、温まると固まってくる性質のものや、冷やすと元の液体に戻るというものもあります。

中でも、今まで冷蔵保存しなければならなかったために、長期旅行に行くときは保冷剤とともに持ち歩くなど、保存方法が難しかった緑内障治療用の目薬は、メーカーがいろいろなデータを集めて調べた結果、一カ月ぐらいであれば、室温保存でも問題がないことが分かり、予備の目薬は冷蔵保存ですが、使い始めた目薬は室温保存で良くなったという

ケースもあります。

逆に、冷蔵すると液体の中に、薬の塊ができてしまい、眼の刺激となるものもあり、こういうものは必ず室温保存にしなければなりません。今のところ、薬局でお渡しする目薬で、冷凍庫に入れなければならないものはありません。

また、室温保存の薬でも、冷蔵庫に入れてよいものもたくさんあります。冷たい方が、入ったことがよく分かる、冷たくて気持ちが良いという理由から冷蔵保存される方も多いと思いますが、何でもかんでも冷蔵保存するのではなく、調剤された薬局の薬剤師に保存方法をよく聞いて、正しく保存してください。

また、目薬の保存は温度に注意するだけでなく、光を嫌う性質のものもありますし、内服薬、外用薬、注射薬にも、それぞれ固有の保存方法があるものが多いので、次の機会に紹介します。